

(7) 2歳6か月のころ

●こんなことにも挑戦するようになります。

- ・高いところに登る。
- ・ジャンプして飛び降りる。
- ・ブランコに乗る。

家の中ばかりじゃなく、屋外に連れて行ってね。公園もいいけど、うちの周りの散歩でも十分なんだよ。体をいっぱい使って遊んだらご飯もおいしいんだ。ボク、モリモリ食べちゃうよ。

●自己主張が激しくなります。何でも自分でやりたがり、うまくいかないとかんしゃくを起こします。

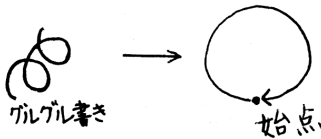
ママを手こずらせることが多くなるんだ。ごめんね。でも、ボクが独り立ち（自立）していくための途中経過なんだ。

●「これナニ?」「ナンデ?」を連発します。言葉も二語文を話せるようになります。

ボク、何でも知りたいんだ！うるさがらずにわかりやすい言葉でボクの質問に答えてね。

●「閉じたまる」が書けるって？

書き始めた始点にまた戻ってこれるということは、見通しができているということ、近い将来を予測できるということです。この、先を見通す力があるから、次に何をするかがわかり、子ども自身が自分で考えて目標をもって行動できるようになるのです。

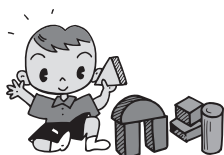


1歳6か月を過ぎた頃から、例えば、ご飯を食べた後はお散歩だから、ぼうしを準備してくつをはいて待っていよう、「次は○○だから、そのために○○する」という見通しの力をつけていきます。

次の○○が、わくわくするような楽しいことが待っているからこそ、次は○○だという先の見通しや、イメージする力もできていくのです。つまり、子どもとお母さんとの楽しい共有体験が見通しの力を育てるわけです。「ボクはママと楽しく遊んだ経験をもとに、見通す力やイメージする力を身につけていくんだ！」

●「みたて・つもり遊び」は生活の鏡

葉っぱをまな板に、砂をじゃがいもにみたてて、カレーライスを作ったつもりで遊んだり、積み木を横に並べて、汽車のつもりで遊んだり、こんな子どもの様子が見られます。



※再現してみたいなあと思う生活経験の豊かさをつくるのが大切です。

このみたて・つもり遊びは、子ども自身が体験したことを、頭の中でイメージとして呼び起こして再現しているのです。この、イメージの力が、幼児期の子どもの表現を豊かにする大切な力となります。何よりも経験が大事。経験させる勇気を！

● 比べる力

「大きいー小さい」「多いー少ない」「長いー短い」などの対比的な性質をあらわすことばが理解できはじめます。これは、1歳の頃の欲張りな心や自己主張が、比べる力の土台になっています。だから欲張りな心や自己主張は、とつても大切に育てないといけなのです。

1歳の頃の自我の発達、何でも自分のものにしたい欲張りな心をみせていました。「これ、ボクの！ボクの！」と、所有権の主張からはじまり、「もっと！もっと！」と自己主張し、そして「いっぱい！いっぱい！」「おっきいの！おっきいの！」と欲張りな心を表現するようになるのです。まさに必要にかられて、「いっぱい」「おっきい」などという対比的な量の性質をあらわすことばを使うようになるのです。

★ 子どもの悩み事 Q & A

Q 下に兄弟ができました。だだこねが激しくなったりして困っています。どう接したらいいのでしょうか？

A どの子どもさんにも、少なからず赤ちゃん返りはあると思ってください。お母さんをとられたという思いから、お母さんの気を引こうとだだこねをしてみたり、言うことを聞かなくなったりします。「お兄ちゃんなんだから」「お姉ちゃんなんだから」は禁句です。子供さんの言うことに耳を傾け、一緒に遊んであげる時間を少しとってあげてください。（寝る前に絵本を読んであげるなど）

Q とにかく落ち着きがありません。注意力散漫で集中力にも欠け、1日中騒がしくしています。

A 学齢期ならともかく、この時期の子どもは、奇声をあげたり、急に走り出したり、もともと落ち着きのないものです。むしろ順調に育っている証拠でもあります。興味があることは思い切り自由にやらせることが大切です。注意しなければならないのは、行動の目的が周りの人には理解できず、絶えず動き回っていると、急に興味の対象が移り、見ている唐突な感じがするようなときは、保健師にご相談ください。

Q 片づけをさせようとしてもなかなかしてくれません。どうしたらいいのでしょうか？

A 子どもはなぜ片づけが必要なのかなかなか理解できません。例えば、「おもちゃをしまわないとお布団が敷けないね」などと、わかりやすくお話しします。そして、はじめは、お母さんと一緒に遊び感覚で片づけさせます。しまいやすいようにおもちゃ用の箱を用意したり、整理しやすいようにシールをはったりしてパズルのようにすると、片づけに興味を持ちます。ちゃんとできたらほめて、習慣が身につくまで、気長につきあいましょう。